

## 加古川駅周辺の賑わい創出に向けた実証実験結果と本格実施について

### 1. 実証実験結果について

#### (1) 期間

令和4年7月28日から令和6年3月31日（令和5年度末）まで

#### (2) 実施結果

##### ①概要

(R6.2.29 現在)

		令和4年度	令和5年度
実施期間		R4.11.13～R5.3.26	R5.4.1～R6.3.30
実施回数		10回(休日10回) ※延べ14日間	34回(休日10回、平日24回) ※延べ36日間
実施内容	出店イベント	7回	29回
	PR等イベント	3回	5回
実施場所 (重複)	駅南広場	5回	32回
	駅北広場	1回	2回
	駅北自動車整理場	6回	2回
	ペDESTリアンデッキ	1回	5回
来場者数		6,878人	16,284人
実施団体数		8団体	10団体

※実施回数及び実施団体数は申込済の見込。来場者数は2月末現在の実績。

##### ②実証結果及び考察

実証結果	考察
実施期間において44回（延べ50日間）実施した。（月平均2.6回）	民間団体等から駅前の公共空間活用の需要はある。
一定の来場者が確保でき、足を止めるきっかけになっていた。	公共空間の活用は駅前に滞在する要因となり得る。
足を止めるきっかけにはなるが、滞りに繋がらないケースも見受けられた。	駅前に滞在空間が不足している。 天候や気候にも大きく影響を受ける。
平日夜間のイベントの集客力が高かった一方、平日昼間は少なかった。また、休日は平日夜間ほど来場者数が伸びなかった。	加古川駅の利用者数が集客力に影響しており、加古川駅周辺が目的地となっていないのではないかと推察される。
駅南側の方が駅北側と比べ集客力が高かった。	駅南側の方が人通りが多く、住宅地の多い駅北側に足を運ぶ人が少ない。
マルシェ等の出店イベントの方が体験型やPR等のイベントと比べ集客力が高かった。	公共空間は体験型やPR等のイベントを実施するには狭く、内容も限定される。

#### (3) 今後の方向性

駅周辺の公共空間活用による賑わい創出の可能性が確認できたため、実証実験の取組を本格実施に移行する。また、滞在空間が不足している課題に対し、今後、滞在空間創出に向けた社会実験とスモールリノベーションを実施する予定である。

裏面あり

## 2. 令和6年度以降の本格実施について

JR加古川駅周辺（以下「駅周辺」という。）の賑わい創出を図る公民連携の取組として、駅周辺における滞在空間の創出と回遊性の向上を図るほか、まちづくりに関する活動を実施している団体（以下「民間団体等」という。）への活動の場の提供と活動機運の向上を図るため、次のとおり実証実験の枠組みを継承し、本格実施に移行する。

### (1) 実施概要

#### ①対象エリア

- ・ 駅南・駅北広場  
（歩道部分のうち市管理部分）
- ・ 駅北自動車整理場  
（休日昼間のみ）
- ・ 駅南2階ペDESTリアンデッキ  
（市所有部分）



※私有地等を使用する際は、別途、所有者等との協議が必要になります。

#### ②対象団体

個人事業主、法人又は複数の個人・法人によって構成されるグループ  
※営利事業、個人の趣味的な活動や民間団体等の親睦事業等は対象外

#### ③実施可能時間

- ・ 開始可能時刻：午前7時00分（午前5時から設営可）
- ・ 退場時刻：午後9時00分（午後11時までに退場又は退場準備）

#### ④公民連携のポイント

- ・ 市との共催により、対象エリアの使用料を無料とする。
- ・ 市が警察等との協議をサポートする。
- ・ 道路管理者への道路占用許可申請及び警察への道路使用許可申請等は市が行う。
- ・ 市がイベント等の広報活動をサポートする。

### (2) 今後の流れ

